

栄養学・薬学・医学・歯学・看護学・リハビリテーション学グループ 分野連携アクティブ・ラーニング対話集会 開催要項 オンライン開催

1. 開催趣旨

新型コロナの感染が弱まりこそすれ蔓延が続く中において、大学では対面授業と遠隔授業の長所を組み合わせたハイブリッドな授業がニューノーマルな教育として受け止められつつあります。

学びのデジタル変革は、対面による物理的空間の学びと、時間・場所を越えた遠隔・オンラインによる仮想空間の学びを組み合わせることにより、多様な「知」や「体験」との融合を可能にする学びの高度化と、学修者個々の可能性を伸長する学修者本位による教育への転換を加速する点で、必須の教育のパラダイムシフトと考えます。デジタル技術の導入が目的ではなく、それを手段として活用し、学生が生涯に亘り主体的に問題発見・解決に関与し、価値創造につないでいくなど、社会貢献の幸せを享受できるように支援していくことが教育のデジタルトランスフォーメーション(DX)ではないかと考えます。

そのような観点から本対話集会では、ポストコロナ社会で質の向上を目指す新たな学びの創出として、思考・判断の考える力を訓練するハイブリッドな授業を如何にデザインし、学生に最適な学びを提供することができるかを探求し、改革行動につなげていく場としました。

2. 対話集会のねらい

ポストコロナ社会におけるアクティブ・ラーニングの新しい学びの創出及び推進普及を目指すため、次の観点を意見交流します。

- ① 地域の社会課題や SDGsなどをテーマに、学修者の可能性を伸長する教育への転換、遠隔と対面を効果的に組み合わせた問題発見・課題解決型教育(PBL)の工夫と課題、戦略を研究します。
- ② ネット上で多分野の知識を組み合わせ、知の創造を訓練する授業モデルの可能性を研究します。
- ③ 対面と遠隔の複合形態による学修プラットフォームに必要な機能と課題について整理します。
- ④ クラウドを活用したビデオ試問による思考力等の点検・評価・助言モデル構想のニーズを確認し、学生に点検評価の結果をフィードバックする仕組みの実現可能性について研究します。

3. プログラム

(1) 開催趣旨の説明

(2) アクティブ・ラーニングの話題提供

① 栄養学分野

「反転授業で興味・関心をリクエストし、学修意欲の向上を目指す遠隔講義の取組み」

知識・興味不足による学修意欲の低下が進行している食品学総論を改善するため、教科書を用いた予習解説動画による事前オンデマンド学習で、重点的な説明や興味を持った点を掲示板に書き出させ授業中に解説することで、学生の目的意識や理解度が大幅に向上した取組みを紹介します。

中京学院大学短期大学部健康栄養学科准教授 由良 亮 氏

② 薬学分野

「実務実習前後に実施したオンラインによる参加型学修の工夫、成果、課題の報告」

「薬剤師としての心構え」、「患者・生活者本位の視点」を身に付ける態度教育として参加型学修を6年間学修しているが、これをオンラインで代替した。5・6年次では、実務実習前後にLMSで個人ワークによる学生レポートの相互閲覧、グループワークによる他学生へのコメント投稿、テレビ会議による討論や発表のハイブリッドな授業運営を通じて、考える授業になることの期待を紹介します。

帝京平成大学薬学部教授 菊地 真実 氏

③ 医学・歯学・薬学・看護学分野

「医療に必要なデータサイエンスのアクティブラーニングモデルの提案」

新型コロナウイルス感染症等を題材に、感染症数理モデルを用いた解析を体験することにより、データを用いて科学的に考察するオンデマンド型授業モデルを紹介します。

元関西医科大学 大学情報センター准教授 渡辺 淳 氏

④ 医学・歯学・薬学・看護学・栄養学分野

「ICTを活用した医療系学部合同の生命倫理教育の取組み」

医療系学部4年次600名を対象に、基調講演をオンデマンドで事前学修させた後、10のグループでブレイクアウトルームを用いてファシリテータを配置し、複数のテーマについて課題認識・設定、問題解決の議論・発表・評価・講評を行い、良い成果が出ている取組を報告します。

東邦大学医学部医学教育センター教授 廣井 直樹 氏

⑤ 医学・歯学・薬学・看護学・栄養学・情報コミュニケーション学分野連携

「ICT活用による分野横断型実験授業の取組み」

問題解決力養成を目的に、医療・福祉・栄養・情報コミュニケーション6分野の学生2グループが、掲示板、Zoomによるテレビ会議で意見交換し、コロナ禍時代の持続可能な医療・健康生活を考える授業を5回試行し、その成果と問題点について報告します。

昭和大学歯学部歯科医学教育推進室主任教授 片岡 竜太 氏

(3) 意見交流

- ① 学修者本位の教育への転換、遠隔と対面を効果的に組み合わせたPBLの工夫と課題及び戦略
- ② ネット上で多分野の知識を組み合わせ、知の創造を訓練する実験授業モデルの可能性
- ③ 対面と遠隔を組み合わせたプラットフォーム作りと課題の整理
- ④ ビデオ試問による思考力等の点検・評価・助言モデル構想の具体的なイメージ確認と課題

4. **参加対象者**：国・公・私立大学の教員、職員、授業補助学生(TA・SA)など

5. **開催日時**：令和4年1月22日(土) 13:00~17:00

6. **会場**：オンラインによるテレビ会議室 (Zoom使用) とします。なお、申込者には、テレビ会議室専用のURLを1月17日(月)に申込書のアドレスにメールで通知します。

7. **定員**：200名 (先着順で受け付けます)

8. **参加費**：無料

9. **資料の配信**

準備ができ次第、資料を以下のページに掲載します。

<https://www.juce.jp/senmon/active/>

10. **参加申込**

別紙申込書に必要事項とアンケートを記入の上、FAX又はメール添付にて**令和4年1月14日(金)**までに申し込み下さい。申込締め切り後でも受け付けることがありますので、事務局に問い合わせ下さい。

メール送信先：info@juce.jp FAX送信先：03-3261-5473 TEL：03-3261-2798

11. **その他**

1月22日(土)終了後、参加者には1月25日(火)から27日(木)の3日間、対話集会の開始から終了までの録画を閲覧できるようにします。また、意見交換による課題等の整理は後日、改めて文章で本協会のWebサイトに掲載する予定にしています。